

## 平成27年度 帰国者報告会・歓迎会

平成27年6月6日（土）に帰国者報告会がピュアリティまきびで、歓迎会が岡山アークホテルで行われました。今回は帰国者9名のうち4名の先生方が参加してくださいました。以下に会の様子をお知らせさせていただきます。

### ○開会挨拶

菅野和良副会長から「今回は4名の帰国された先生方からの報告です。偶然4名とも中国です。この報告会を通して、昨今の中国に対するイメージ、感情が和らげばと思っています。本日の会が、素晴らしい会になるよう祈念します。」と開会のご挨拶をいただきました。



### ○帰国者報告

岡本雅弘先生は上海日本人学校へ派遣されていました。「クイズなどざっくばらんな報告をする予定でしたが、昨年度までの帰国者報告を見て、慌てて直前で作り直した」そうです。上海はヨーロッパの植民地だったこともあって大変活気のある街だそうです。旧正月のことや公園での太極拳など、市民の暮らしについて教えてくださいました。



上海日本人学校は分校という形で2校あり、虹橋校1301名、浦東校1160名の計2461名が在籍しています。ただ、昨今の空気汚染などの問題で赴任時の平成24年度から3年間で約300名減ったそうです。分掌では研究主任などを担当され、教員の資質向上や気軽に相談できる環境作りを意識して「授業ぶらり週間」や「研修会」など様々な新しい取り組みを提案・実践してこられたそうです。

派遣を通して、自分自身の中国に対する考え方が大きく変わったこと、人と人の付き合いの大切さの重要性に改めて気付かされたということでした。

多田賢一先生是北京日本人学校の校長として赴任されていました。日本大使館附属小学校ということでいろいろと制約は多かった反面、税制優遇などのメリットも多かったそうです。反日運動と空気汚染等の問題で平成24年度までは600名前後だった児童生徒数も年々減っていき、平成26年度は486名まで減ったそうです。

赴任時は、近くのホテルがかすんで見えたら外での活動を禁止するなど、大気汚染に関してあいまいな対策しか取られておらず、各教室や体育館に空気清浄機を設置したり、大使館と連携しながら対応マニュアルを作成したりと、早急に大気汚染対策を講じられたそうです。また、勤務内容の改善や学校事務の効率化など、多田先生が取り組まれた多くの事例を紹介していただきました。



3年間の勤務では、危機管理、教育環境整備、心の指導を大切にした学校運営の大切さを意識して職務を遂行されたそうです。また、文科派遣教員の役割と心構えについても教えてくださいました。

中原真智子先生は蘇州日本人学校で勤務されていました。3年間を一言で表すと「パラダイス」だそうです。

中原先生は巧みな話術で会場を盛り上げ、子どもたちの短歌や俳句を通して中国と日本のよさを伝えられたらということで報告してくださいました。



赴任した年に反日デモが起き、たまたま街でデモに遭遇してしまい、日本

食店などが目の前で壊される光景が忘れられず、しかし、壊された店は1週間後には営業を再開するというたくましさに驚いたとも教えてくださいました。ただ、日本で報道されているようなデモのイメージではなく、一部の暴徒が行っている行為であって、大半の中国の方は皆で仲良くしていきたいと思っており、そういった破壊などのデモ行為に憤慨しているそうです。

学校では二胡や太極拳、書道（二度書きOK!）などの現地理解教育や、運動会ではソーランなど、日中それぞれの文化のすばらしさを感じたとのことでした。また、日本では短歌や俳句を通した子どもたちの価値観を紹介するなど、日本でよい授業をすることがお世話になった中国への恩返しになるのでは、と報告を締めくくってくださいました。

稲本多加志先生は青島日本人学校に勤務されていました。青島の場所が分からなかったので、赴任地を聞いてすぐに職員室のパソコンでこっそりと調べたそうです。

青島は、ドイツ統治時代の赤煉瓦の建物も多く残り、中国人にとってリゾート地という感覚が強く、また、「金の雑きん」とも呼ばれていて、きれいな部分とそうでない部分が共

存している街でもあるのだそうです。反日デモでは日本の自動車販売店が自社の看板を大きな布で覆い、日本企業であることを隠して対応している光景が印象に残っていると教えてくださいました。

季節によってもPM2.5の濃度が変わり、秋の風が吹いているときは空気が比較的きれいだそうですが(それが日本へ飛散しています)、ひどいときにはおいを伴う濃霧のような状態になるそうです。

日本人学校では職員室のデータ整理や図書館の整備(青島60選)、校内研究の推進(現地理解教育と授業との融合)に力を入れてこられたそうです。小学校教員をされておられる稲本先生ですが、日本人学校での中学校の指導経験を今後に生かし、在日中国人の支援など今後につなげていきたいと語っていただきました。



#### ○指導・講評

・岡山県教育庁 教職員課長 鍵本先生

「今、現場では危機管理と人材育成の2点が大切であると考えます。文科派遣の先生方におかれましては、子どもたちのためにいかにこういった研究を進めていくかということが重要になります。今日の報告では数々の実践報告を聞かせていただき大変参考になりました。外国にいる日本の子どもたちにいかに日本を感じさせてあげられるか、また、現地の方々との関わりの大切さも感じました。私も社会科の教員をしていましたが、子どもたちが生の体験を聞くとときの目の輝きは違います。先生方の体験された貴重な経験を岡山で広めてくださることが国際理解につながり、グローバル人材の育成にもつながると思います。」



・岡山市教育委員会 学事課長 三宅先生

「先生方の報告から大変なご苦勞を感じ、また、日本では考えられないようなことが起こりうるのだということを再認識させられました。しかし、先生方がしっかりと考え、適切に対応する、これを遂行するためには人とのつながりが必要不可欠であるということを感じました。ミドルリーダー研修などを通して学校へしっかりと伝達していただき、様々な人々と交流を通して皆とのつながりを今後も深めていただきたいと思います。先生方のパワーを日本でも生かしてください。」





## ○閉会あいさつ

服部支部長が閉会の挨拶を行いました。

「大変お忙しい中、準備等ありがとうございました。また、今日は先生方のご報告の時間が短かったこと、お詫び申し上げます。一つ言えることは、海外派遣により、物差しが複数できたということです。私も派遣から20年経ちますが、物事をいろいろな視点で考えられるようになりました。先生方におかれましては今後とも様々な場所でご活躍いただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。」



帰国者報告会に続き、会場をアークホテルに移して歓迎会が行われました。

## ○開会あいさつ・乾杯

服部支部長が開会のあいさつを行いました。

「中国の広さと、中国に対するイメージが大きく変わったことを実感しました。この会ではざっくばらんなお話を聞かせていただきたいと思います。今回の派遣で家族や人との絆が強くなったと思います。またこの会は、世界を経験したメンバーが在籍する宝箱のようなものです。こういった仲間を大切にしていってください。」



その後、帰国者紹介、そして和気副会長による乾杯で歓迎会が始まりました。

## ○帰国者から一言

### ・多田先生

「東京三鷹に現在暮らしていますが最近は大きな地震もあり、びっくりしています。中国では予想だにしないことが度々起こります。デモや大気汚染による臨時休校や、政府要人による急な学校訪問。著名な方が来校されるはありがたいことですが、いつも連絡が直前なのでばたばたです。また、宇宙飛行士の若田さん、野口さんが続けて来校してくださったことは記憶に新しいです。PM2.5の数値がどんどん大きくなり、900→1200→測定不能となり、『外出禁止』という一斉送信メールが来たことには驚きました。我が家にも空気清浄機を入れて対応しました。肺活量が急激に落ちていましたが、



日本に帰国してからは通常値に戻ったので安心しました。現地の方々の優しさにもたくさん触れられたこともよい思い出です。中国は決して悪い国ではありません。ぜひ中国旅行を楽しんでください。」

・岡本先生

「『夢の上海生活でした。』これは JTB 社員さんからお聞きした、駐在員が本帰国する際に必ず言う言葉だそうです。私にとってもその通りの素晴らしい3年間でした。3年間でびっくりしたことを紹介します。それは中国の『問題ない』という文化。突然の急ブレーキや交通事故など、どんなことでも『気にしない』場面を多々見てきました。また、5年生の宿泊研修直前にも『ブーチン大統領が来るから休校にしてください』、『習近平氏が宿泊所近くに滞在しているから』との理由でスカイランタンも飛ばせなかったことなど。良くも悪くもこの考え方を体験してきました。しかし、逆に私たち日本人は他人を『気にしすぎ』ているのかもしれないことにも気づき考えさせられた件でもありました。全国にできた仲間も財産です。」



・中原先生

「中国ってよかったなぁとよく思います。日本の生活に疲れているのかもしれませんが、先ほど『夢の上海生活』とありましたが私は『パラダイス蘇州』です。中国の国民気質はよく言えば大らか、悪く言えば粗雑。最初は『いやあ!』と思っていましたが慣れると『仕方ないや』。この文化は私にとっても合っていましたが潔癖な方には耐えられないと思います。お好み焼きにミミズが入っていたこともありましたが、ピンと飛ばしてはいどうぞなんてこともありました。私も2、3度お腹を壊しましたがすぐに慣れました。上海マラソンにもチャレンジし、普段運動していない私は思い立ってトレーニングを始めました。イメージトレーニングです。いい感じでトレーニングはできたのですが結果はタイムアップ。イメトレ以外の練習もしなければいけません。狂犬病発症の危険にも遭遇しましたが、何とか現地の方の協力もあり乗り切りました。以上です！」



・稲本先生

「家族も呼んだらいいよとのことで呼びましたが他のご家族は来ておらず、妻の視線が冷たいです（笑）赴任時は飛行機に3時間乗れるかと心配していた娘も大きく成長しました。現地では娘と過ごす時間が多く取れましたが、日本ではその時間も十分に取れておら

ず、そこが寂しいところです。赴任が決まり、現地の情報をインターネットで調べましたがとても景観がきれいで安心したので覚えています。そこはほとんど訪れない場所でした。タクシーもサービス精神無しで、乗車拒否や、こちらの声が小さくドライバーに聞こえなかったら『ああ？』などの反応は当たり前、バスもタクシーもいったん乗ればカーレースのようで、帰国した娘が日本のバスは止まっているの？と聞くほどでした。3年目には、ケーキ教室に参加したことが広報誌に掲載されたり、それらがきっかけとなり多くの方々と交流できたりなど、たくさんの思い出もできました。今思えば狭い社会で生活できたことはかえってよい経験だったと思います。機会があればこれらの経験を広めていきたいです。」



#### ○閉会のあいさつ

半澤副支部長が閉会のあいさつを行いました。

「娘が北京に留学しているので、中国を訪ねた時のことです。マーケットに行くと、妻には英語か片言の日本語で話しかけるのですが、私には必ず中国語で話しかけてきます。日本人妻をもった中国人として認識されているようでした。現地の方々にも普通に道を聞かれます。さて、日本人学校では小中併設の学校が多く、小中の教員と一緒に勤務するという感覚や、国際感覚、先生方の養われた感覚は今後非常に大切になってくると思います。今日はお忙しい中本当にありがとうございました。」

